

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立斐太高等学校 学校番号 57

I 自己評価

1 学校教育目標	豊かな心と主体性を育み、幅広い知識と高い学力を身に付けることで、多様な社会に対応できる創造性豊かな人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり探究心を持って自ら学び続け、問題解決や新しい価値の創造に取り組むことができる生徒 ・多様性を尊重し他者と協働することができ、国際社会の持続的発展や平和に貢献することができる生徒 ・地域社会の発展を考え、答えが見えない課題に対してもグローバルな視点からアプローチすることができる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の興味・関心が引き出され、深い学びと進路実現を可能にするバランスの取れたカリキュラムの編成とICTの活用や少人数によるきめ細かい指導 ・地域や社会と連携した探究的な学習や体験活動等を通じて、教科横断的な学び、協働的な学びを推進するとともに柔軟な思考力を醸成 ・生徒を主体として運営される様々な行事を通して創造的企画運営力やリーダーシップ、チャレンジ精神を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲と知的好奇心を備え、向上心を持って学び続けることができる生徒 ・自ら進んで人と関わる中で、他者との対話を大切にして自他の個性を認めるなど、仲間と協力して物事に取り組める生徒 ・広く社会に目を向けることができ、地域や世界の課題をジブンゴト(自らの課題)として捉えることができる生徒

3 評価する領域・分野	◇教務		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・メール配信等による生徒・保護者への情報伝達、教科指導やオンライン授業への評価が昨年に引き続き高くなっていった。 ・学力だけでなく、一人一人のよさや可能性を伸ばす校風等の評価が高い点が、学校生活の満足度に繋がっていると感じる。 ・学習評価の方法について少し評価が低いので、観点別評価の研究などを含め、より良い学習評価に努めたい。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇新教育課程の実施科目、内容の研究を継続し、観点別評価を確実に実施する。 ◇新カリキュラムの改善に向けて検証する。 ◇ICTを活用した学習方法の研究を進める。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程研究委員会、学習指導委員会等の各種委員会において情報・共有しながら、各種行事や教育課程、評価方法を検討する。 ・教務部ICT係を中心としてICT推進委員会を組織し、教員間及び生徒、保護者への迅速な情報伝達、支援を行う。 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 観点別評価について、各教科で複数回のシミュレーションを行う。その実施状況や問題点などについて教科内で共通認識をもち、学習指導委員会などで取り上げて改善する。 (2) 教育課程委員会等で現行教育内容の検証や反省を行い、来年度以降の教育計画や指導計画に生かす。 (3) 平素よりICTを活用した授業研究を行うとともに、教員研修を実施する。	(1) 生徒、保護者対象アンケートの結果分析 (2) 家庭学習状況調査 (3) 外部試験等の結果		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における前期の観点別評価をまとめた。学習指導委員会で意見交換をし、評価方法をまとめた。 ・新カリキュラムの作成に向けプロジェクトチームを作り、今年度中に動き出す予定。 ・毎日の欠席者に対する授業のオンライン配信や各種集会におけるオンライン配信を行った。またメタモジの使い方についての職員研修を実施した。 	①各教科で確実に観点別評価を行っているか。職員で共有できているか。 ②現在のカリキュラムを研究し、よりよいカリキュラムの構築を行う。 ③不備なくオンライン配信を行うことができたか。研修を実施し職員間で共有できたか。	① A B C D ② A B C D ③ A B C D	

12 成果 ・ 課題	<p>○観点別評価については、各教科の協力もありよい基準ができた。来年度に向けて更に研究し、よりよいものを作り上げたい。</p> <p>▲新カリキュラムの作成は進展していない。年度末になるが来年度に向けて確実に動き出す必要がある。</p> <p>○オンライン配信についてはICT担当を中心によく対応できている。来年度は教務部以外の職員でも対応できる体制を作りたい。また、各種ツールに対する職員研修も充実させたい。</p>	<p>総合評価</p> <p>Ⓐ B C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価については、2年次生は選択科目も増え評価が複雑になることが考えられるので、教科内、教科間の意思疎通を4月当初より図る。 ・カリキュラムは学習活動の大元になるため、より良いものを作り上げるために時間をかけ、他校のカリキュラムも研究しながら進める。 ・オンライン配信については、教務部だけでなく各学年のICT担当にも協力してもらおう。各種ツールの使用方法（実践例）を職員研修で定期的に行っていく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムを作成していく中で、生徒の理解度や興味関心を可視化し、学習指導要領と照らし合わせながら進めてほしい。 ・ICTの活用について、さらなる活用効果を狙い、新しい活用の仕方を研究してほしい。 ・ICTの活用が教師の負担増になっていないか心配している。 ・新学習指導要領カリキュラム、ICT活用の効果などの説明をしてほしい。 ・多くの職員がスキル向上を目指す研修に取り組んでほしい。

I 自己評価

3	評価する領域・分野	◇進路指導		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・文理選択を始めとした適切な進路選択のサポート ・入学者選抜方式の多様化に伴う適切な進路情報の提供と進路実現できるサポート体制の構築 		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇地域社会に貢献できる幅広い知識と高い教養を有する人材の育成 ◇キャリア教育に力を注ぎ、主体的に進路を考え、目標を達成できるサポートづくりの構築		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択に役立つ行事を円滑に遂行できるよう、学年会等との連携を密にする。 ・生徒の進路実現に向けて、全職員での協力体制を構築する。 		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 学部学科説明会・インターンシップ・進路展望プロジェクト・ミニ教育実習等の実施 (2) 模擬試験結果分析研修会の開催 (3) 全職員による小論文指導・面接指導など	(1) 生徒の感想・アンケート結果 (2) 模擬試験などの結果 (3) 一般選抜に加え、その他の入学者選抜における合格状況		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な進路選択に向け、大学教授や社会人との交流、職場研修の機会を増やした。 ・模擬試験の結果を進路指導に結び付けられるよう結果分析の研修会を8月に実施した。 ・総合型選抜、学校推薦型選抜を利用する生徒の進路希望に応じた適切な指導教員の割り振り。 	① 進路選択に役立つ内容となっていたか。 ② 模擬試験の結果に成果として表われたか。 ③ 総合型選抜、学校推薦型選抜において成果が表れたか。	㉠ B C D A ㉡ C D A ㉢ C D	
12	○ 今年度、新たに始めたミニ教育実習や企業セミナー・地元企業ガイダンスなどを通して、生徒のキャリア形成に役立てることができた。 ○ 模擬試験の分析研修会を通して、結果をどう見ていくべきかの共通理解を図ることができた。教科指導や進路指導へさらに生かしていきたい。 ▲ 共通テスト前の国公立大学の総合型選抜、学校推薦型選抜において、一定の合格者数は出たが、指導に関しては教員個々に任せているのが現状である。	総合評価 A ㉠ C D		
13	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜、学校推薦型選抜対策として、小論文や面接指導に役立つ教員対象の研修会の実施。 ・今年度から導入したスタディサプリは教科によってその活用の度合いにばらつきがあった。各教科と連携を図りながら、進路実現につながる活用の仕方を考え実践していく。 ・令和7年度入試に向けて、各機関から収集した情報を基に、関連する分掌や学年及び各教科と連携を図りながら、生徒の進路実現に向けて必要な支援策を講じていく。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・小論文や面接指導は外部講師に依頼しているとのことだが、本校に貢献したいと考えている育友会員や有斐会員に依頼することも考えてほしい。 ・総合型選抜や学校推薦型選抜などで早期に進路が決定した生徒の学習へのモチベーションの低下が懸念される。学習意欲を保てるような手立てを引き続き講じてもらいたい。 ・総合型選抜や学校推薦型選抜など多様化する受験方式に対応できる進学指導の実現を期待したい。

I 自己評価

3	評価する領域・分野	◇図書広報	
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：感染防止対策に取り組みながら、生徒への読書支援、学習支援を行っている。図書館を頻繁に利用する生徒とほとんど利用しない生徒の二極化が課題である。 ・広報：アンケートによると、本校の情報発信力・各種広報活動（オープンキャンパス等）については概ね高い評価をいただいている。 	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇図書：生徒を中心とした図書委員会活動を支え、図書館の環境を整える。 ◇広報：生徒を主体とした広報活動のスムーズな運営と内容の改善。	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：各クラスの図書委員の活動を通じて、多くの生徒に読書を勧める。ホームルーム・授業での図書館の活用を増やす。 ・広報：他分掌と情報を共有し、全校体制で取組む。 	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 図書：生徒の読書活動を促すために、行事等との有機的な連携を図る。また、教員向けの図書館便りを発行するなど、教職員にも図書館の利用を働きかける。 (2) 広報：他分掌とも綿密に情報共有し、全校体制での広報活動に取り組む。	(1) 図書：各クラスの図書の貸出し数、図書館の利用頻度の確認 (2) 広報：行事ごとに実施する各種アンケート結果の分析	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：イベントの開催や掲示板の活用による図書館のPR、学級文庫の設置、LHRや授業での図書館の活用の推進。 ・広報：学校説明会の資料作成、学校案内の作成オープンキャンパス・中学校一日の実施。 	①図書：生徒が中心に運営できたか。また、図書館の積極的な使用がなされたか。 ②広報：昨年度の反省を踏まえ、より効果的なPR活動ができたか。	A B C D A B C D
12	成果 ・課題 ○図書：司書を中心に生徒が主体の読書活動を企画・運営することができた。 ○広報：今年度もコロナ禍による制約があったものの、以前の状態に近い形で広報活動が行える部分も出てきた。生徒会を中心とする生徒達も様々なアイデアで積極的にオープンキャンパスや中学生一日入学に貢献してくれた。参加した中学生や保護者からも良い評価を得た。さらに、全職員の協力のもと全校体制で実施することもできた。 ▲読書活動の更なる推進。	総合評価 A B C D	
13	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・図書：少しでも多くの生徒が訪れ、読書に親しめるような居心地の良い図書館の環境を作る工夫。図書館利用の説明の機会を増やす。 ・広報：ホームページに掲載する内容やより良い提示の仕方などについて、他の分掌とも連携しつつ検討・工夫を進めていく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館オリエンテーションを年度当初だけでなく、年間複数回行ってよいのではないか。 ・電子書籍の導入を検討してもよいのではないか。 ・活字離れやコロナ禍の中、図書館利用向上の努力がなされている。 ・広報活動において、常に情報を更新して新しいものを提示してもらいたい。
--

I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的な判断を促す指導により、マナーや社会規範を自ら必要なもの捉え、節度を持って行動することができている。 ・様々な生徒の悩みや困りごとに応じて、外部との連携も含めた丁寧な対応が取れている。気軽に相談できる雰囲気为学校全体に広める。 ・自らの目標に向かう充実した学校生活と人権意識を高めることで他者を気遣う心を育み、いじめが起きにくい雰囲気を作り上げる。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人に規範意識と倫理観を体得させ、自主自律的な態度や行動がとれる生徒を育成する。 ◇教育相談体制を充実し連携の強化を図り、全職員による相談体制を実践する。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による登校指導と生徒指導部による校門指導であいさつと見守りをしながら、自発的な行動を促す言葉かけをしていく。 ・各部署のリーダーを中心に連携を深めていき、情報共有を大切にして、組織で対応できる関係性を築いていく。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 毎朝の登校指導で規範意識や安全意識の醸成。 (2) 教育相談週間の設定。SCの利用を推進。 (3) 生徒や取り巻く環境を観察し、情報共有を図る。	(1) 自転車安全運転チェックシート（年2回） (2) クラス居心地度調査や心のアンケートの実施 (3) アイチェックの結果分析 (4) 保護者、生徒の支援状況（相談記録）	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の交通安全指導を3箇所で行う。 ・MSリーダーズ（公安委員）による啓発活動。 ・年3回の教育相談週間を実施。 ・心理検査の「アイチェック」の実施。 ・人権教育推進で人権についてのLHRを実施。 ・担任会、教科担任会議等で情報の共有を実施。 	①交通駐留調査結果・チェックシート ②情報モラルチェックシート ③学校居心地度調査 ④アイチェックの結果分析 ⑤授業後感想文の分析 ⑥生徒、保護者の支援状況（相談記録）	A B C D A B C D A B C D A B C D A B C D A B C D
12 成果課題	○生徒は落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っており、身だしなみについて生徒の節度ある自覚が見られる。この伝統を大切にしていきたい。 ○教育相談体制を確立することで、丁寧な対応ができている。年度当初の欠席者、不登校や異動する生徒も若干であるが減少した。 ▲自転車の交通マナーについてルールを守って交通安全に心がけている。大きな怪我には至らなかったが、年度前半に自転車事故が多かった。 ○積極的に「いじめ」を認知し、学校全体で情報を共有し対応した。	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・不易と流行のバランスを考える。命、安全、仲間の大切さを発信し、「より良く」のために生徒主体の活動を増やす。 ・支援が必要な生徒の早期発見とその生徒への適切な対応のため、常に意識を高く持ち、生徒の小さな変化を見逃さないようにする。 ・生徒指導部全体で担任・生徒・保護者への支援体制について継続的に検討・研究を行う。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育をさらに充実してもらいたい。 ・SNSの使用について、学校がどれだけ把握しているか気になる。学校側から生徒へのアクションを起こして欲しい。 ・自転車事故が多いのが気になる。 ・毎朝の登校指導は有益な活動である。 ・18歳成人を受けての教育の充実を検討してください。（消費者教育等） ・マナーやモラルのない生徒が一人もいないように願います。
--

I 自己評価

3	評価する領域・分野	◇特別活動		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・コロナウイルス対策を取りつつ、行事や活動における生徒満足度の向上に配慮されていた。		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇コロナ禍における感染予防対策を講じたうえで、生徒主体の学校行事を実施する。		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・他分掌や学年など職員間での情報共有を図るとともに、生徒会・各実行委員会と協議する。		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 生徒が主体的に学校行事の企画運営に取り組む事ができるよう、その時々々の現状を踏まえた資料提供や相談などのサポートを行う。 (2) コロナ対策を十分に講じられるよう設備・道具予算などをできる限り準備する。	(1) 生徒会・各種実行委員会、職員などの意見聴取 (2) 学校評価アンケートの結果		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	・地域の感染状況等を踏まえた行事等の実施方法について、生徒会・実行委員会等と協議した。 ・行事等で新型コロナ感染予防対策のため消毒液の設置の増加や、生徒による感染対策の周知を行った。	① 新型コロナ感染症対策を講じつつ、生徒が主体的に諸活動に取り組んでいるか。 ② 行事後に新型コロナ感染症の感染者が増加していないか。	Ⓐ B C D Ⓐ B C D	
12	成果 ○コロナ禍において感染者を出さないようどう学校行事を実施するかを生徒会や実行委員会が職員と協議し、生徒が主体となって考えることができた。 ○体育祭をはじめ生徒運営による主要な行事において、感染者を出すことなく実施することができた。 課題 ▲ここ数年、コロナ対策を考慮した行事運営などが課題となったため、生徒による学校生活の改善等に十分取り組むことができなかった。	総合評価 Ⓐ B C D		
13	来年度に向けての改善方策案 ・ウィズコロナにおける感染対策を考慮した学校行事の継続。 ・より一層の学校生活の充実を図るため、スクール・ポリシーやアフターコロナを踏まえた生活指針などの見直しを生徒会と進める。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナのなか、感染対策など生徒が主体に考え、学校行事を実施できたことは素晴らしい。今後も感染対策を踏まえた学校行事の継続を望む。 ・外部と生徒が積極的に関わる機会が増えたことはよい。 ・斐太高校の部活動の良さや文武両道の姿を大事にしてほしい。

I 自己評価

3	評価する領域・分野	◇保健厚生			
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策について、生徒の安全を最優先とし適切な対応を講じているとの評価を得ている 校内の環境美化について、清掃が行き届いていないと考えている生徒が多い。 			
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇コロナ禍における健康管理意識の向上を図る。			
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会による保健委員会や厚生委員会の活動促進 保健だよりなどの配付物や掲示物によるなどの広報・啓蒙活動 			
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8	達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 健康カード、LEBERによる日々の健康チェックを徹底する。 (2) 健康管理を意識づけさせる掲示物を作成する。 (3) 公文書などによる情報発信を迅速にする。		(1) LEBER入力9割以上、カード提出100% (2) 保健室廊下への掲示、行事ごとの注意喚起 (3) 分掌内での情報共有			
9	取組状況・実践内容等	10	評価視点	11	評価
<ul style="list-style-type: none"> 健康チェックによる生徒の健康状態把握 保健だよりの発行、救急法講習会の実施、生徒の検診結果等の情報提供 全校体制で臨む掃除の実施、厚生委員を中心とするゴミ分別の点検・指導等 		(1) LEBER、健康チェックカードの提出状況 (2) 生徒の健康管理（出欠状況治療等）の確認 (3) 点検結果の考察、日常点検ゴミの分別状況の確認		Ⓐ B C D Ⓐ B C D A B ○ D	
12	成果・課題	○毎日の健康チェックの実施やマスク着用、手指消毒、換気、黙食などの基本的な感染症対策は浸透し、コロナ禍で開催できていなかった行事も実施できている。保健委員や厚生委員の生徒会活動も日常や各行事での活動に積極的に取り組むことができた。今後とも感染対策を徹底したい。 ▲生徒のアンケートで、校内の清掃が行き届いていないという回答が多くあった。本来、校内の環境美化は教員も含む全校が取り組むべきものだと考える。掃除担当者が掃除をしていないから汚れているのではなく、気付いた者が自主的に校内美化に繋がる行動をする意識を持たせるようにしたい。		総合評価 A Ⓑ C D	
13	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策については、5類相当への引き下げが予定されているが、引き続き万全の感染対策をしていく。 現在の掃除体制の見直しの検討や校内美化を啓蒙する掲示物の作成などにより、校内美化の意識を高める。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、生徒の日々の健康状態をチェックする習慣ができていることが素晴らしい。 コロナ対策が緩和されているが、校内は引き続き現在の対策を継続して活動してほしい。 週末などは床に物を置かないようにしてしっかり掃除する日を作ったらどうか。 教える立場の人が率先して掃除する姿を見せないと生徒はついてこない。廊下にゴミがあれば職員が拾うということを当たり前に行うべき。
--

I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇ 渉外	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭（バザー）・マラソン大会が中止となった為、ノウハウを引き継ぎ確認し合う時間を作る必要がある。 ・育友会実行委員会は例年どおり開くことが出来、行事としては総会やPTフォーラムを対面開催として復活させることが出来た。また指導者研修会においては地区理事として運営にあたった。 ・有斐会理事会は例年どおり開くことが出来た。行事としては総会を3年ぶりに、学年代表会は昨年度に引き続き開催することが出来た。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇育友会及び有斐会活動の安定した運営を図る。 ◇各行事の引き継ぎ、準備、運営を確実に行う。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・予め複数の運営方法を計画し、準備態勢を整える。 ・役員会と協力し共通理解のもと企画運営を行う。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 行事についてはコロナ状況を考慮し、オンライン等複数計画を立てておく。 (2) PTフォーラムの事前アンケートの実施と講師選考、進行方法の検討により、保護者の参加意欲を高める。 (3) 各行事・会議について、引き継ぎの時間を設け、スムーズな準備・運営を図る。	(1) 準備・運営の迅速さや確実さ (2) 事前アンケートへの回答の満足度 活発な意見交換と保護者アンケートの満足度 (3) 各行事の反省の内容	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・育友会総会を対面により開催した。 ・PTフォーラムの実施方法を検討し、対面および配信により実施をした。配信した動画撮影は業者に依頼しての実施だった。 ・文化祭バザー、県外学校訪問、マラソン大会が中止となった。 ・育友会報や有斐会報は予定どおり発行した。 ・有斐会総会は十分なコロナ感染対策をした上での開催だった。 	①計画的にかつ状況の変化に応じて対応できたか。 ②中止行事について、来年度に向け申し送りが出来たか。	① A B C D ② A B C D
12 成果・課題	○育友会総会 ○育友会総会は十分な新型コロナウイルス感染対策を講じることで、3年ぶりに対面開催することができた。 ○PTフォーラムは、新型コロナウイルス感染状況に合わせて検討し最善の方法で実施できた。すぐメールでのアンケートは効率的であった。 ○育友会報は、コロナ感染対策・工夫を凝らして行った行事や生徒達の成長など学校の状況を外部に知らせる機会となった。 ▲今年度のPTフォーラムの開催方法については、対面開催・オンライン、両面の良さを踏まえ開催方法を検討したい。また高額な料金がかかる動画撮影を業者委託にするかどうかとも要検討事項である。 ▲中止となっている育友会行事は、来年度以降の復活を見越して早めに話し合っていく必要がある、そのノウハウの掘り起こしや引き継ぎについて課題が残る。 ▲有斐会総会は、3年ぶりの開催ということもあり準備に不備があった。有斐会担当者との連携も含め、準備の方法を確認する必要がある。	
13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・PTフォーラムの実施については、今年度の対面開催によって、改めてその良さが浮き彫りとなる形となった。配信の希望もあり、できる限り多様なニーズに応えられるような実施の形を考え探していきたい。 ・新型コロナウイルス感染対策のため依然として中止になっており行事は、実行委員の経験不足やノウハウの引き継ぎに大きな課題がある。来年度以降の実施に向けて、協力体制の下、早めの計画や準備を図りたい。また役員に対しての行事についての説明や指示は、丁寧な姿勢で臨みたい。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

【意見・要望・評価等】

- ・PTフォーラムが実行（会場対面開催）できてよかった。
- ・中止された行事は残念だったが、形を変えながら様々な行事が出来良かった。
- ・中止になった行事については引継ぎをしっかりと行っていくことが大切。蜻蛉祭での育友会バザー再開の場合は、OBなどが協力することも可能である。
- ・新型コロナウイルス感染症対策もあるが、文化祭（育友会バザー）やマラソン大会（走路補助）が開催できるようノウハウを検証し実施してもらいたい。
- ・PTフォーラムへの保護者参加意欲の向上という目標について、今後も継続して欲しい。

I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇探究活動推進	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を対象とするアンケート票、通番（17）総合的な探究の時間の意義について、結果（よくあてはまる、あてはまる）が昨年度を下回っている。 ←今年度、1年生については昨年度から内容等を変更している。その影響もあるかもしれないが、変更した内容に対する生徒の反応は良いと捉えている。様子を見ていきたい。 生徒を対象とするアンケート票、通番（30）ボランティア活動について、結果（よくあてはまる、あてはまる）が昨年度を下回っている。 ←FRHを通じて、地域貢献活動等、検討してみる。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> FRH（地域共創フラッグシップハイスクール）事業や、スクール・ポリシーに基づいた総合的な探究の時間の取組を推進します。 地域活性化プログラムを改善します。 人材育成を目指したプログラムを推進します。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動推進部を中心に、学年、外部機関と連携をとっていく 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) FRHの取組や総合的な探究の時間の運用について、昨年度の課題を考察しながら、柔軟に推進します。 (2) 地域、外部機関と連携を取り、生徒の可能性を広げる工夫をします。 (3) 生徒と地域の方々と交流できる機会を増やしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各プログラムの生徒アンケート結果 (2) 生徒のレジュメ、プレゼン内容 (3) 学校評価アンケートの結果分析 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から、特に1年生においては、総合的な探究の時間の内容を大幅に変えた。 地域内外の方々の協力のもと、様々な分野の方と交流できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各プログラムの生徒アンケート結果 ②地域活性化プログラムに関する相談会や地域内外の方々の講話等の数 	<ul style="list-style-type: none"> A B C D A B C D
12 成果 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生の総合的な探究の時間の内容に変化を加え、地域内外の方々の協力のもと幅広く学び、新たな気づき等を感じさせることができた。 ○2年生の地域活性化プログラムについて、テーマのマンネリ化解消を目指し、テーマを分散させることができた。 ▲生徒の好奇心を掻き立てるような探究学習を推進できれば良かった。 	
13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> 地域の活性化に限らず、幅広く、生徒の好奇心を引き出すような探究学習を実施したい。具体的には、1、2年生で地域歴史探究、地域自然探究、個人課題探究といったものを実施する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマを生徒から集めるのも一つの方法である。 外部機関との連携をどんどん取っていただき、斐太高校の地域内での存在感をこれまでより高めてほしい。OB、OGのつながりも活かしてほしい。 探究であるので、今年度の研究の深化、ブラッシュアップするものがあったとしても良い。 校内で完結できない活動故、苦勞されることも多いと思うが、探究活動はグラデュエーション・ポリシーを忠実に反映する重要な活動に位置付けられると考える。 FRHの学習活動は、学校評価アンケートでは否定的な評価が多かったが、今年1月の発表会を終え、達成感があったのではないかと。優れた提案はまちづくりに影響があると思う。
--